



発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

新手法の不妊治療

出産8例実用化めど

愛知県豊田市小坂町、竹内病院・トヨタ不妊センターの越知正憲所長(右)らの研究グループは九日、凍結させた体外受精卵を使う独自の不妊治療法により、同日までに妊婦八人の出産に成功したことを明らかにした。越知所長は「実用化のめどが立った」として十一日、東京都内で開かれる日本不妊学会で発表する。

豊田の病院

受精卵は通常、卵管で分割が進み、受精から五日後に胚(は)い、盤胞となって子宮内膜に着床、妊娠する。体外受精を用いた不妊治療は従来、受精卵が四八分割(受精後二三日)の状態で子宮に移植する例が多く、着床率をどう高めるかが課題だった。同センターでは培養液の技術進歩に伴って昨年九月



越知正憲所長

受精卵を長期培養

手法に挑戦。同時に子宮内重、滋養、群馬県などの女性の状態が良い時に移植できるよう、凍結受精卵を夕イミングよく解凍する技術などを向上させた。

その結果、今年八月までに四十五人のうち二十六人が妊娠。同センターでは、体外受精を過去五回以上試みた人の妊娠率が二〇数%だったのに対し、妊娠率を五七・八%に高めた。

象外で、一回の治療費が二十万―三十万円と高額。経済的理由から受けられない

人が多いとみられる。回数を重ねることも、母体への負担が大きい。

越知所長は「妊娠率を高めて実用化できたことが、不妊に悩む人々への朗報になれば」と話している。

凍結胚移植の第一人者、神谷レディースクリニック(札幌市)の神谷博文院長は「全国でも珍しい画期的な不妊治療法が、実績を積んだことは注目される。ただ、現状では胚盤胞まで到達できる受精卵は半分程度。培養液の向上など、培養技術の一層の進歩が望まれる」としている。